

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2192200018-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方がゆったりとした気持ちでその人らしい生活を送ることを事業所独自の理念に掲げ、サービスの提供、雰囲気、環境作りに努めています。レクや季節の行事、外出支援を多く取り入れ、利用者、職員ともに楽しい時間を過ごす機会を持っています。また、写真を多く撮り編集して共用スペースに貼りだし、利用者、職員、訪れた家族の方など楽しく見てもらっています。貼り出すことにより、利用者の記憶を想起することができ、認知症の進行を緩やかにする効果があります。また、自立支援にも力を入れ、本人の有する力を場面に応じて活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の希望にあわせ、その人らしさを発揮できるよう、職員一人ひとりが利用者に向き合い、ゆったりと支援している。家族には、利用者の日常生活や行事の様子を1年分アルバムにまとめ送付した折にも、意見や要望を聞いて運営に反映している。外出や、食べることを楽しみにしている利用者、季節ごとの散策や、法人合同の運動会で楽しんでいる。外食は馴染みの店で特別席や別メニューにも配慮している。正月には、利用者は石臼と杵で餅つきをし、雑煮にして正月気分を味わっている。かかりつけ医・協力医とは夜間対応も含め、事業所と常に連携を取れる体制である。避難訓練は煙を発生させた実体験で安全を重視し、職員研修を重ねながら職員一人ひとりの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく生活できるような支援を事業所独自の理念としている。毎月の会議で唱和、事業所内に掲示することで、職員は理念を共有し利用者がその人らしさを発揮できるよう個別対応、なじみの関係作りなど実践している	理念を管理者・職員で作成し、会議や申し送り時に唱和し、振り返り確認しながら、利用者のできることや希望を探し出し、その人らしさが発揮できるケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店へ利用者と一緒に買い物に出かけたり、季節ごとの保育園児の訪問など交流している。また近隣の方がボランティアとして訪れ、お茶会や演奏会などの交流がある。地域の一員としての役割や日常的な交流には至っていない	保育園児やボランティアを受け入れ交流をしている。自治会にも加入している。祭りへの誘いを受けたが、急な坂道や道幅が狭く参加できなかった。散歩や買い物等地域の人と出逢えば積極的に声をかけているが、日常的な交流が十分といえない。	地域行事には参加できることから始め、事業所の行事にも訪問を呼びかけ、相互が交流できる働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込み時や電話での問い合わせ時には、相手の方の状況に（傾聴）共感し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供ができるよう心がけている。事業所の特性(認知症ケア)を活かした交流、地域貢献はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月と12月は4事業所合同、あとは自事業所で開催される。合同の時も後半は各事業所毎に別れ個別で議事録を作成している。合同開催時は情報交換が、個別で開催時はより深い意見交換がなされ、サービス向上に反映されている	年2回の4事業所合同会議では参加者から、意見が寄せられている。隔月の会議では事業所の現状報告をしている。メンバーの欠席もあり十分な意見をきくことができないが「近くに施設ができる話を聞いたがどうか」と気遣う意見もある。会議録は全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時や利用者の認定調査などで高齢福祉課の方が訪問した時に、事業所のサービス状況について話をしたり、ニーズを伝えアドバイスを頂くといった連携を図っている	行政には会議の参加時や、事業所の現状報告などに訪問し、担当者に挨拶している。困難な事例や、書類提出などに出掛けた時にも、相談しながら協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を順番に受講し、それを基に内部研修を行い職員が理解、周知徹底できるよう取り組んでいる。夜間は柵(小)、鈴、離床センサーと状況に合わせて個別で対応し、昼間は玄関の施錠を開放している	事業所として身体拘束をしない方針を職員に周知し、社内研修で徹底している。以前夜勤者が早期に対応できるよう鈴・センサーを使用していたが、利用者の行動が把握できたので今は使用していない。常に職員間で「してはいけない一覧表」を確認しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様外部研修を受講し、それを基に内部研修を行っている。日々のケアの中で必要と感じた時は、不定期に研修を実施し、正しい知識の理解、防止の徹底に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、外部研修に参加すると共に、事業所会議にて勉強会を開き、知識を深めるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と直接お話す為に土日はなるべく事務所が不在とならないよう配慮している。また、定期的に家族にアンケートを取る、玄関に意見箱を設置するなど意見、要望を表しやすい取組みを行っている	家族の訪問時に状況を伝え意見を聞いている。法要に連れて行きたい、個室からトイレへ短い手すりがほしいなどの要望にも早急に対応している。隔月の便りの発行時と、年末に利用者ごとの行事参加の表情写真をアルバムに編集し、家族に送付する折にも意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員が気軽に管理者に相談や意見、要望を言いやすい関係を築いている(逆の場合もある)内容に応じて、トップマネジメント会議(全事業所の管理者出席)に挙げ、円滑な運営に反映させている	意見や提案を気兼ねなく言える関係づくりに努めている。職員は書面で自己評価表を提出し、それを基に管理者が個別面談して職員の質の向上や運営に活かしている。職員の意見から全居室に加湿器を設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全事業所合同の研修を開く時は、一緒に学ぶ事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。ケアマネは、2ヶ月に1回市の連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている(訪問マッサージの利用)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを常に認識し、本人の話に耳を傾けたり、時には相談にのってもらったりと、共に支え合いお互い和やかな生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、家族と共に本人を支援していけるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設入所している友人との電話での交流、訪問した時すこししやすい環境作り、また家族の協力の下、行きつけの店に出かけたり、かかりつけの病院に受診に行くなど馴染みの人や場所との関係継続に努めている	職場の同僚や友人の信者が訪問している。知人の施設に面会に行くなど、利用者の希望に対応している。来訪者が継続して訪問できるよう支援している。外食時に知人に逢えば、同じ店を利用し出逢えるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、日々の関わりの中で利用者同士の関係を把握する。利用者同士が交流できるレクの時間を設け、時には職員が橋渡しとなり、ひとり一人が支えあえる関係作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所のサービスが終了しても、これまでの信頼関係を保ちながら、家族の相談に耳を傾けたり支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を日々の関わりの中から把握している。困難な場合は、本人の視点に立ち検討し、できるだけ希望に添うことができるように努めている	夜間・入浴時など1対1になる時や、気の合う職員にたずねている。食事時には食べたい物、行きたい場所を聞いている。無口な方にも寄り合い、口元の動きや、表情やうなづきなどから、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人の協力の下アセスメントシートを作成し、これまでの暮らしを把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子や行動、身体状況など随時個別記録に記入し、把握に努めている。さらに申し送り(ノート、メモの活用)により、職員全員が情報を共有できるよう徹底している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活する為に、本人、家族、医師など関係者から意見を聞き、適時職員間で話し合い、定期的にモニタリング(評価)を行うことにより現状に即した介護計画を作成している	申し送りノートや個人記録から情報を収集し、家族や医師の意見を聞きながら介護計画を作成している。月1回のモニタリングで日頃の記録や職員の意見を取り入れて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況、実践したケアサービスなどを個別記録に記入し、勤務交代時には、申し送り(申し送りメモの活用)を行い職員間で情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院・外出支援の送迎など柔軟な対応ができるよう努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会や民生委員、市役所の方が参加し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医による継続的な医療が受けられる。また、状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて診察が受けられるよう支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。かかりつけ医・専門医の受診には、家族と看護師が同行し状況報告しながら支援している。受診結果は記録に残し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき異常の早期発見に努めている。変化に気づいた時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連携を取り、適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員が随時病院に顔を出すようにしている。又、家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えられるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し、終末期の同意書を交わしている。必要な時には何度も医師を交えて話し合い、家族が泊まったこともある。職員には救急や救命対応の研修をしている。その日その日の利用者の状態にあわせ、関わり方を看護師を中心に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、急変時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に(年2回)行い、急変時や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に実際に煙を発生させ、避難経路の確認や利用者の誘導など訓練を行っている。終了後は必ず振り返りを行い改善に繋げている。災害時には地域の方の協力が得られるように、運営推進会議で自治会長や民生委員の方に声をかけている	実際に煙を発生させて避難訓練を実施している。視界がなくなることで、消火器の設置場所、車椅子移動困難など、課題や反省点をあげ消防署と改善の話し合いをしている。地域住民参加の体制が構築できていない。	自然災害も踏まえて地域と相互協力ができるよう、運営推進会議で呼びかけ、地域の役員などと話し合うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守る為に、排泄など介助の場面で、自尊心に配慮した言葉かけや対応を行っている。内部研修を行い、介護計画書にも挙げ、職員が常に意識を持つように努めている	利用者に対して特に上から目線、幼児言葉、命令言葉にならないよう、また他の利用者の中で義歯を外す行為をしないなど、職員一人ひとりが意識し、職員間でもお互いに注意しあっている。利用者の人格を尊重した言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日々の関わりの中で利用者が思いや意向を気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく一日をすごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じて、そのつど本人と話し合い、より良い方向性を指向していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問理容があり、本人が髪型の希望を理容師に伝え、相談しながら決めていく。起床時、外出時は本人と一緒に服を選ぶように取り組んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成し、一人ひとりの好みを把握している。利用者と一緒に献立を決めたり準備を行い、同じテーブルで会話を交えて楽しく食事をしている。自分で食事ができるように箸、スプーン、器など本人に合った物を用意している	献立はユニットごとに違い、職員が利用者の好みを聞きながら、献立が重ならないよう、彩りや盛り合わせを工夫している。職員も介助しながら一緒に食事し和やかな雰囲気である。正月には石臼で利用者と一緒に搗き、雑煮にして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて工夫し、水分は食事以外でも飲む機会を持つように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録に排泄状況を記入、一人ひとりの排泄パターンを把握し、状況に応じて声かけ、見守り、誘導など援助している。ADLに関しては、日中はパンツの着用、トイレを使用するなど、本人の排泄習慣が守られるように援助している	本人に合わせた排泄時間を把握している。昼間は二人介助が必要な人もトイレ誘導し、尿意をなくさないよう、皮膚を傷めないように配慮しながら、おむつを使用しない支援をしている。希望により同性介助もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握し、早期に便秘解消できるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員と会話し、楽しくゆったりと入浴できるような雰囲気作りを心がけている。予定のない日でも、本人の希望や状況に応じて入浴できるように努めている	家庭浴と機械浴があり利用者の状態や希望にあわせ対応している。柚子・菖蒲で季節を感じ、利用者同士の楽しい会話が弾むこともある。毎朝、温タオルで陰部清拭して清潔にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調を考慮し、本人のペースで安楽に休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、薬情ファイルを作成し把握している。服薬は、一人ひとりの状況に応じて介助、見守りなど援助している。症状の変化については、随時看護師に報告し、医療と連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートにて一人ひとりの生活歴や好み、趣味を把握し、歌やゲーム、学習など個々に合ったレクを楽しんだり、家事など役割となるものを持っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時や天気の良い日は、屋外に出て散歩したり、買い物に同行、喫茶店に行くなど気分転換の機会を持っている。また、年間行事計画を作り、家族やボランティアの協力の下、季節の行事や誕生会に合わせ外出支援を行っている	日常散歩時には、自販機でジュースを買い、野草を摘み、前庭で歩行訓練し、日光浴など楽しんでいる。外食行事が好評で馴染みの店は特別席や別メニューを用意されており、車椅子のまま食事ができる配慮をしている。利用者の希望にあわせ近くの店舗まで買い物や、ドライブにも支援している。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、一人ひとりの能力に応じて自己管理の援助を行っている。必要な物品は、職員が同行し、一緒に買いに出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に添って適切な時間に取りつぐなど、自身が対応できるように支援している。手紙が届いた時は必ず本人に渡し、こちらから出す時は代わりに投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースは、季節に応じて手作り中心の飾り付けが施されている。また、行事の写真が貼り出し、いつでも楽しみながら振り返ることができる。光、温度など空調管理は、一人ひとりが快適に過ごせるように配慮し、席の位置など工夫している	ひな祭りの飾りつけや、行事写真を利用者の目線と一緒に掲示し、家族と会話ができる工夫をしている。掘りごたつでカルタとり、洗濯物たたみをしている。居室前に安楽椅子を置き一人好みに過ごせる空間がある。歩行補助用の手すりを玄関前左右に設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に座ってテレビを観たり、他の利用者や職員とおしゃべりが出来るようにソファを用意している。また、和室にも座れる空間を設け、職員と交流する場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が居心地よく過ごせるように家具の配置など配慮し、本人や家族と相談して馴染みの物、好きな物を置いている。壁にはお誕生日や行事の写真が貼り出してある	ベッドの人・畳の人と自由な居室である。飼い猫に似たぬいぐるみを置き、パイプハンガーに着替えをかけ、好みの椅子、柱時計など使い慣れたものを家族や職員と一緒に居心地よく配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせ、転倒事故などにつながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200018-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく生活できるような支援を事業所独自の理念としている。毎月の会議で唱和、事業所内に掲示することで、職員は理念を共有し利用者がその人らしさを発揮できるよう個別対応、なじみの関係作りなど実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店へ利用者と買い物に出かけたり、季節ごとの保育園児の訪問など交流している。また近隣の方がボランティアとして訪れ、お茶会や演奏会などの交流がある。地域の一員としての役割や日常的な交流には至っていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込み時や電話での問い合わせ時には、相手の方の状況に(傾聴)共感し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供ができるよう心がけている。事業所の特性(認知症ケア)を活かした交流、地域貢献はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月と12月は4事業所合同、あとは自事業所で開催される。合同の時も後半は各事業所毎に別れ個別で議事録を作成している。合同開催時は情報交換が、個別で開催時はより深い意見交換がなされ、サービス向上に反映されている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時や利用者の認定調査などで高齢福祉課の方が訪問した時に、事業所のサービス状況について話をしたり、ニーズを伝えアドバイスを頂くといった連携を図っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を順番に受講し、それを基に内部研修を行い職員が理解、周知徹底できるよう取り組んでいる。夜間は柵(小)、鈴、離床センサーと状況に合わせ個別で対応し、昼間は玄関の施錠を開放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様外部研修を受講し、それをもとに内部研修を行っている。日々のケアの中で必要と感じた時は、不定期に研修を実施し、正しい知識の理解、防止の徹底に努めている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、外部研修に参加すると共に、事業所会議にて勉強会を開き、知識を深めるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と直接お話する為に土日はなるべく事務所が不在とならないよう配慮している。また、定期的に家族にアンケートを取る、玄関に意見箱を設置するなど意見、要望を表しやすい取組みを行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員が気軽に管理者に相談や意見、要望を言いやすい関係を築いている(逆の場合もある)内容に応じて、トップマネジメント会議(全事業所の管理者出席)に挙げ、円滑な運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては、年間計画を立て、全職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全事業所合同の研修を開く時は、一緒に学ぶ事で、個々に抱えている問題や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。ケアマネは、2ヶ月に1回市の連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談するが、思いや不安、要望など気持ちを引き出せるよう尊敬の念を持って笑顔で接している。対話の中から、今後安心して入所生活を送れるように、その人を知り、良好な関係が作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯をお聞きし、家族の不安や要望、思いを共感を持って受け止めている。入所後も、本人を共に支えるパートナーとして信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、要望をお聞きし、また状況を見ながら必要とされる支援を判断し、随時相談、検討している。(訪問マッサージ、歯科往診など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり同じテーブルで食事をとり、お話を耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど、介護する側、される側に別れるのではなく共に暮らすという意識を常に持って支えあいながら日々を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況(情報)を、面会時、または電話、おたよりなど随時伝えている。ただ伝えるだけではなく、時には協力を仰ぐなど共に本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解、協力のもと、知人との関係が維持できるよう面会に来てもらっている。面会時は知人が気軽に来れるよう居心地の良い雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの時間を設けるなど、利用者同士が関われる機会を作っている。その日の様子を見ながら、時には職員が間に入り橋渡しをするなど、利用者同士が気持ちよくすごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関わりを必要とする本人、家族には、いつでも相談、支援できる体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で本人の希望や意向を把握している。困難な場合は、本人にとって最善な支援ができるように、家族に相談、本人本位の立場になり検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人との会話を元にアセスメントシートを作成し、これまでの暮らしを職員全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの言動や身体状況の移り変わりなどを毎日個別に記録し、申し送りを徹底することで、職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回または必要時、モニタリングを行い、課題の抽出、ケアについての検討など本人、家族や関係者(職員、看護師、ケアマネ、主治医)と行い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況、実践したケアの内容など個別に記録し、口頭や書面にて申し送り等で職員間の情報の共有、把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に応じて、外出支援や受診、入退院時の送迎、入院中の洗濯やおむつ補充など柔軟な支援を行なっている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、自治会長、民生委員など出席し、情報交換、協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき異常の早期発見に努めている。変化に気づいた時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連携を取り、適切な医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、看護師や職員が随時病院に顔を出すようにしている。又、家族や主治医と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、急変時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に実際に煙を発生させ、避難経路の確認や利用者の誘導など訓練を行っている。終了後は必ず振り返りを行い改善に繋げている。災害時には地域の方の協力が得られるように、運営推進会議で自治会長や民生委員の方に声をかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声かけや対応など、一人ひとりの尊厳を守るケアが提供できるように、勉強会を定期的に行っている。また、介護計画書にも記し、常に意識を持ち、サービスの質の向上に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人が思いややりたい事を気軽に言葉に出せるように雰囲気作りに努めている。利用者によっては自己決定の困難な場合もあるが、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるよう本人の希望を優先する。不都合が生じた場合は、その都度本人と話し合い、よりよい方向性を指向していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容がある。髪型は本人が理容師と相談して決められる。また、起床時や入浴、外出時は本人が職員と一緒に好みの服を選ぶよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作り、一人ひとりが何を好み、何が苦手なのか把握できるように努めている。それぞれの有する力に応じて、下ごしらえや片付けなど職員と一緒にこなしている。食事は職員も同じ机で、会話を交え和やかにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は随時個別記録に記入、職員間で把握している。一人ひとりの状態に応じ、食事の形状や軟らかさなど配慮し、水分は食事以外にも飲む機会を持ち、確保に努めている。また、栄養バランスは定期的に栄養士による管理指導を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、介助など行い、清潔保持に努めている。歯科医の指導のもと、ケアにあたっている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、ADLに応じて誘導、声かけ、介助など必要な援助を行い、出来る限りトイレで排泄ができるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握、確認し、水分や食品など工夫して、なるべく自然排便できるように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、本人の希望に合わせて入浴できるように支援している。予定のない日での状況に応じて行うなど柔軟に対応している。個浴(一般浴)が難しい利用者は、機械浴(特浴)にて入浴している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、生活習慣を考慮し、本人のペースで安楽に休めるよう空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容などは薬情ファイルを作成し、職員全員が把握できるよう設置。服薬は名前、日付を確認し、一人ひとりの状況に応じて、介助、服薬確認など援助している。症状の変化については、随時、看護師に報告し、医療と連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートにて一人ひとりの生活歴や好み、趣味を把握し、歌や塗り絵、ゲーム、学習など個々に合ったレクを楽しんだり、家事など行い、一人ひとりの力を引き出すように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時や天気の良い日は屋外に出て散歩したり、買い物に同行、喫茶店に行くなど気分転換の機会をもっている。また、年間行事計画を作り、家族やボランティアの協力のもと、季節の行事や誕生会に合わせ、外出支援を行なっている		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、一人ひとりの能力に応じて、自己管理の援助を行なっている。必要な物品などは職員が同行し、買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望にそって適切な時間に取り継ぐなど、自身が対応できるよう支援している。手紙が施設に届いた時は、必ず本人に渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなど共用スペースは、季節に応じた手作り中心の飾り付けがしてある。また、行事の写真を貼りだし、いつでも楽しみながら振り返ることができる。光、温度など空調管理は一人ひとりが快適に過ごせるよう配慮し、席の位置など工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に一人用、二人用のソファを置き、朝陽を拝んだり、利用者同士でおしゃべりできる空間がある。リビングにも、好きな時に座ってテレビを観たり、他者や職員とおしゃべりできるように椅子、ソファを用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が居心地よく過ごせるように家具の配置など配慮し、本人や家族と相談して馴染みの物、好きな物を置いている。壁にはお誕生日や行事の写真が貼り出してある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせ、転倒事故などに繋がる障害物の撤去など安全な環境を整え、できるだけ自立した生活が送れるように支援している		